

学 園 報

No.43

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/>富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/>富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/>社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <http://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444

TEL/076-436-5139

FAX/076-436-5444

「知識は力なり」



理事長

金岡 克己

平成30年8月12日、山口県周防大島町で、2歳の誕生日を迎えた男の子の行方が分からなくなるといふ事件が起きました。朝10時半、祖父と別れて行方不明となり、68時間後の8月15日早朝に無事保護されたものです。

3日目には、警察・消防など160名体制で捜索しましたが発見には至りませんでした。ところが、大分から駆けつけたスーパーボランティア尾島春夫さんが、捜索開始からわずか20分、山の中で男の子を発見しました。

金岡はこの4月から富山県公安委員長を仰せつかっています。警察組織の日頃の努力を間近に見る機会が増えましたので、警察・消防・町当局を批判するつもりはありません。ただ敢えて、後付けの見解を述べさせていただきます。2つの疑問が残ります。

一つは、最初から男児死亡と決めつけていなかったかということです。捜索のTV映像を見ると、まるで事件の遺留品を隈なく探しているように感じられました。もう一つは、捜索関係者に、2歳児の行動に対する理解がどれくらいあったのか、ということです。

尾島さんは、平成28年12月大分県佐伯市の2歳女児捜索(21時間後発見)に加わった経験から、幼児は上に登る、意外に行動半径が広い、ということを知っていました。そして、地図から当たりを付け、山道を登り、わずか20分で見つけたのです。まさに、知識、経験の勝利といえるでしょう。

2000年前の世界人口は2億人と推定されています。現在は75億人です。世界人口の増大カーブは、19世紀、20世紀に急速な立ち上がりを見せています。人

類の発展を支えたとされるのが農耕と文字の発明です。特に、文字の発明は、人類の歴史に決定的な貢献をしたといえるでしょう。これにより、人々の知識が蓄積され、その蓄積の上に、新たな文明、科学が積み重ねられてきました。15世紀には活版印刷、20世紀にはコンピュータが開発され、知識の集約がさらに加速されました。

現代社会に生きる私たちは、過去の知識蓄積の恩恵を最大限受けています。ところが、かつて円周率に3を用いてよいとの議論がなされていたことに疑問を感じずにはいられません。豊かな社会を形作ったのは確かに人間ですが、自然の摂理を超えて存在する文明の利器は何一つありません。小学生にまだ小数点を教えてないからとの理由のようですが、教育界側の整合性を真理に優先させる姿勢は如何なものでしょう。

インターネットの普及により、知識が簡単に得られる環境が実現しているにもかかわらず、疑似科学や健康に対する誤った情報が後を絶ちません。一つには、専門家と見なされる人々が、事実の十分な裏付けもなく、180度異なる自説をばらまいているからでしょう。また、分かりやすさを追求するあまり、すべての物事を、安易に1か0かの二項対立に押し込んでいるからでしょう。一般の人から見て、何が真実なのか見通せないのです。

正しい知識をどのように身に着けるのか、その方法論を教える役割を担う教育界の責務は、情報時代の今こそ、大きいのではないのでしょうか。

CONTENTS

- | | |
|--|--|
| □「知識は力なり」理事長 金岡 克己 …………… 1 | □トピックス 富山市立「西田地方保育所」の富山国際学園福祉会への移管決定 … 5 |
| □特集1 富山短期大学付属みどり野幼稚園の園舎改築工事の進捗状況(Ⅰ期工事の完了) … 2~3 | □平成30年度部門別学生・生徒・園児数等 …………… 5 |
| □特集2 富山国際学園「南砺サテライト」開設1周年記念事業「富山国際大学・富山短期大学 学園祭 in なんと」の開催 … 4 | □平成29年度決算及び財務の状況 …………… 6~7 |
| | □学園NEWS …………… 8 |

富山短期大学付属みどり野幼稚園の 園舎改築工事の進捗状況 (I 期工事の完了)

富山短期大学付属みどり野幼稚園 園長 石動 瑞代

新しい保育室での生活がスタート

平成 29 年 12 月から始まった富山短期大学付属みどり野幼稚園の改築工事も、平成 30 年 8 月上旬に I 期工事が完了。園庭側に建設していた保育室や事務室等、新園舎の大部分が完成し、園児は、新園舎での生活をスタートしています。

明るい光の差し込む保育室や廊下に歓声をあげ、さっそく探検を開始。新しい環境への戸惑いを心配しましたが、やさしい木のぬくもりを感じながら、友達や保育者との楽しい生活を楽しんでいるようです。



富山短期大学側から見た園舎外観



玄関ホール



保育室



プレイルーム



プレイルームで遊ぶ年中児



子育て支援室



園舎探検に出かける年少児

旧園舎の解体

9月からは、旧園舎の解体がはじまりました。大きな音とともに、あっという間に園舎がなくなりました。

それでも、けやきの木が残ることに、安心感を覚える園児が多いようです。

小学校の先生からも、みどり野幼稚園の卒園児たちが「自分達の過ごした園舎が解体されたことは寂しいけれど、園庭にはけやきの木が残っているんだ」と話してくれたと伺いました。みどり野幼稚園の園庭で思い切り遊んだ思い出が、けやきの木に重ねられているのだと感じます。



解体の様子

園児たちは、園庭を利用できなくなったため、近隣の公園等に出かけ、自然とふれあう経験をつくるようにしています。また、正面玄関前の芝生でお弁当を食べたり、短期大学の中庭に作った畑や砂場、短期大学の体育館で遊んだり、学園の環境を活用させていただいています。

今後の予定

Ⅱ期工事は以下の予定で行われ、平成31年3月上旬には竣工を予定しています。学園の皆様には、まだしばらくご迷惑をおかけすることとなります。

どうかご理解、ご協力をお願いいたします。

Ⅱ期工事（解体・外構工事）

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 解体工事 | 8月下旬～10月中旬 |
| (2) 杭・基礎工事 | 10月中旬～11月中旬 |
| (3) 鉄骨工事等建方 | 11月中旬～12月中旬 |
| (4) 内装工事 | 12月下旬～翌年2月下旬 |
| (5) 外構工事 | 10月下旬～翌年2月下旬 |

Ⅱ期工事では、子どもたちが楽しみにしている園庭や、現在の屋上につながる階段などがつくられます。

園庭と屋上がつながることで、回遊性が生まれ、子どもたちの遊びもダイナミックに展開することが期待されます。



屋上の様子



園庭だった場所に完成した新園舎。旧園舎跡は園庭づくりの工事中。
けやきの木が、移り変わりを見守っています。

富山国際学園「南砺サテライト」開設1周年記念事業 「富山国際大学・富山短期大学 学園祭 in なんと」の開催

富山国際学園及び富山国際大学 地域交流センター長 村上 満

はじめに

平成29年の南砺市地域包括ケアセンター（旧富山県立南砺総合高等学校井波高等学校跡地）のオープンと同時に、本センター2階に富山国際学園「南砺サテライト」が開設されてから、早いもので1年が経過しました。県内では富山市に続き、2ヶ所目となる新たなサテライトとして、南砺市の人材育成と地域交流の拠点としての機能と役割をしっかりと果たすべく、センター職員が一丸となって、市民講座等の企画・運営を展開しているところです。

1. 平成30年度の地域交流センターの取り組み

今年度は、富山短期大学地域連携センターとともに、南砺市が抱える地域課題（少子高齢化、まちづくり）等を念頭に置いたテーマを中心とする「リレー講座（富山国際大学：7月～11月 土曜日 計9回、富山短期大学：8月～11月 金曜日 計8回）」を無事開講することができました。

また、昨年度に引き続き、南砺市教育委員会との連携のもと、夏休み期間中、市内中学生の学習支援を本学学生が行う場としても、大いに活用が図られてきたところです。

2. 「南砺サテライト」開設1周年記念事業

「南砺サテライト」の存在をこれまで以上に、知ってもらおうと、南砺市在住の学生をはじめ市内の高等学校出身者や市内で活動を行う学生らで実行委員会（大西央利子委員長：子ども育成学部1年）を組織するとともに、9月28日（金）には、キャラバン隊が田中幹夫南砺市長を訪問し、10月6日（土）に開催する学園祭のPRをしました（写真）。



また、今回の学園祭は、「第3回なんと社協まつり（会場：井波総合文化センター）」との同時開催という形をとることで、両会場を本学教員のプロジェクトで開発した電気バス（EMU）でシャトル巡回させたり、本学吹奏楽部による演奏等で会場を盛り上げるという工夫もしました。

なかでも、「報道の現場から」と題してのNHKスポーツキャスター大越健介氏による記念講演会では、立ち見者も多く出るなど、200名を超える参加者を前に、会場を魅了させるユーモアたっぷりの話術を披露されました。



そのほか、大学・短期大学の紹介コーナーをはじめ、教員によるミニ講義、日頃の学生の地域活動等の成果パネル展示や縁日コーナー等を設けました。会場外では、地元野菜をはじめ学生たちが考案したバイ飯の販売、模擬店コーナー等、子どもから高齢者まで多くの人で終日賑わいを見せることができたと思っております。

3. さらなる発展をめざして

地域交流センターは、言うまでもなく、「学園知」と「地域知」の交互（相互）作用を図る「知の拠点」の代名詞とも言える場です。今後も地域のニーズを捉えた「生涯学習の拠点施設」となるべく、より充実した講座を提供することで、地域社会に貢献してまいりたいと考えております。

富山市立「西田地方保育所」の 富山国際学園福祉会への移管決定

社会福祉法人富山国際学園福祉会 法人本部事務局長

富山国際大学 子ども育成学部 教授 宮田 徹

この度、民営化される富山市立「西田地方保育所」(富山市西田地方町二丁目10-3、定員220人)の引受法人として、学園を母体として2004(平成16)年に設立された「社会福祉法人富山国際学園福祉会」(理事長 金岡 克己)が選定され、2020年4月から運営が移管されることが決定しました。

2005(平成17)年4月の民営化により、富山市から移管を受けた「にながわ保育園」(定員180人)を円滑に運営してきた実績に加え、「富山国際大学や富山短期大学といった高等教育機関と連携できることから、学術性を備えた法人組織による保育所運営、加えて、高度な専門的見地からの多様な保育事業の展開、さらには保育者養成機関との連携による人材確保や保育の質の向上が期待できる」(平成30年8月27日(月)富山市民営化対象保育所及び引受法人選考委員会「富山市立保育所の民営化に係る引受法人の選考について(答申)」)ことなどが高く評価されたものであり、大変喜ばしく、光栄なことと受けとめています。同時に、地域に根ざした子育て・子育て支援拠点として、地域の子育て環境の向上をめざした取組など、当法人への期待の大きさと責任の重さを痛感しています。

今後は、これまで富山市立保育所として積み重ねられた保育の成果を継承し、「子どもが健やかに育ち、保護者の子育てパートナーとなる、地域に根ざした保

育所」をめざし、2019年4月から1年間の保育の引継ぎをはじめることとなります。何よりもまず第一に、子どもたちにとっての保育環境の継続、保育の質の向上を最優先として、これから保護者の皆様、地域の皆様とも十分にご相談し、新しい保育所のスタートに向けての諸準備に万全を期したいと思います。そして、「にながわ保育園」運営の経験と蓄積した知見を活かし、保育・教育・福祉に関する高度な教育・研究機能をもつ富山国際大学・富山短期大学と緊密に連携しながら、質の高い保育・幼児教育、地域の子ども家庭福祉の向上並びに共に支え合い育ち合う地域共生社会の構築に寄与したいと考えています。

学園にとっては、とりわけ富山国際大学子ども育成学部や富山短期大学幼児教育学科において、みどり幼稚園、にながわ保育園に加えて、学生・教員双方が保育や子ども・保護者・地域社会の現状について、体験的・実践的に深く学ぶ場を得ることとなり、より一層質の高い保育者養成や保育・幼児教育並びに子ども家庭福祉研究につながるものと期待されます。

別法人ではありますが、「西田地方保育所」(名称は未定)も学園ファミリーの新たな一員として、皆様の温かいご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成30年度部門別学生・生徒・園児数等

平成30年5月1日現在(単位:人)

部門	学部・学科名等	収容定員(A)	1年	2年	3年	4年	合計(B)	定員充足率(B/A)	備考
大 学	現代社会学部	490	129	107	102	124	462	94.3%	
	子ども育成学部	340	91	114	91	96	392	115.3%	
	小 計	830	220	221	193	220	854	102.9%	
短 大	食物栄養学科	160	80	84			164	102.5%	
	幼児教育学科	160	88	81			169	105.6%	
	経営情報学科	220	125	115			240	109.1%	
	福祉学科	120	31	36			67	55.8%	
	専攻科食物栄養専攻	30	15	14			29	96.7%	
	小 計	690	339	330			669	97.0%	
高 校	全日制普通科	755	331	258	298		887	117.5%	
幼 稚 園		100	3歳児 22	4歳児 26	5歳児 28		76	76.0%	
総 計		2,375					2,486	104.7%	

平成29年度 決算及び財務の状況

平成29年度決算及び財務の状況

平成29年度の事業報告及び決算は、去る5月31日開催の理事会・評議員会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

大学

大学は、現代社会学部の定員確保が最大の課題と言える中で、大学全体では入学定員・収容定員を確保することができました。その結果、当年度収支差額で105,562千円(H28 55,261千円)の黒字計上となり、前年度より黒字額が大幅増となりました。入学定員・収容定員を確保することが、学園の財務状況に与える影響の大きさを実感できる結果となりました。今後、東黒牧キャンパス老朽化対策に経費が高むことが想定されるため、施設設備の有効活用方法について検討し、今後も定員確保及び経費削減にも取り組まなければなりません。

短大

短大は、近年は、福祉学科の定員割れ分を他学科が補うことで、何とか全体として収容定員を確保してきておりましたが、今年度はついに定員割れを生ずるに至りました。これまで学園全体の財務を支えてきた短大が、定員割れとなったことは、非常に厳しい危機状況になったと言えます。当年度収支差額でも、△12,621千円(H28 53,069千円)と赤字に転落となりました。4年制大学志向の高まりなど、全国的に短大を取り巻く環境が厳しいことも踏まえて、本学の今後のあり方を、福祉学科のみならず、本学全体の問題として捉え、生き残るための抜本的な改革が必要です。

高校

高校は、近年、学園内では最も安定的に生徒数を確保し、収支状況も好調に推移しています。特に、全国的にもトップクラスの先進的ICT教育、国際交流活動及びグローバル化の推進などの特色ある教育の実績に加えて、諸活動においても全国大会への出場をはじめ、国際大会への出場を実現するなど、顕著な実績をあげています。当年度収支差額では、56,060千円(H28 53,360千円)となり、前年度を上回る黒字となっています。今後も現状に満足することなく、県内私学の最先端校と言えるように努力を重ねることが必要です。

幼稚園

幼稚園は、現在、園舎改築工事をすすめていることもあり、入園者数を抑制したことから、園児数は大幅に減少しました。しかし、平成31年2月に新園舎が竣工し、加えて、平成31年度から、幼稚園型認定こども園へと移行するとともに収容定員を増加させることとしており、今後、安定的に園児数を確保し、収支状況を改善することが期待されます。なお、当年度収支差額は、園舎改築にかかる大規模投資の影響もあり、△156,035千円(H28 △20,963千円)と大幅な赤字となりました。

学園全体の決算及び財務状況

事業活動収支計算書 (当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの)において、事業活動収入合計が2,858百万円(対前年度比49百万円増・1.7%増)、事業活動支出合計が2,686百万円(同114百万円増・4.4%増)、基本金組入額合計が216百万円(同79百万円増・88.1%増)となりました。収入増の主な要因は、①大学学生数の増、②幼稚園園舎改築工事にかかる補助金の増、③退職金財団・社団からの退職金交付額の増などによるものです。

資金収支計算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	29年度予算	29年度決算①	前年度決算②	差異①-②
収入の部				
学生生徒等納付金収入	1,909,199	1,938,399	1,929,523	8,876
手数料収入	39,289	37,131	38,456	△1,325
寄付金収入	1,905	2,900	12,554	△9,654
補助金収入	730,984	708,011	674,608	33,403
資産売却収入	1	0	0	0
付随事業・収益事業収入	31,762	30,837	29,488	1,349
受取利息・配当金収入	10,220	5,360	6,205	△845
雑収入	124,603	131,731	111,781	19,950
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	465,991	460,767	460,590	177
その他の収入	347,192	381,735	184,193	197,542
資金収入調整勘定	△661,090	△663,728	△577,955	△85,773
前年度繰越支払資金	815,118	815,118	758,751	56,367
収入の部合計	3,815,174	3,848,261	3,628,194	220,067
支出の部				
人件費支出	1,731,233	1,704,267	1,659,587	44,680
教育研究経費支出	581,728	523,593	482,156	41,437
管理経費支出	131,327	122,351	117,289	5,062
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	238,623	235,718	27,914	207,804
設備関係支出	39,804	35,271	106,593	△71,322
資産運用支出	263,780	406,117	475,741	△69,624
その他の支出	141,179	139,678	83,474	56,204
(予備費)	(0)	(0)	(0)	(0)
資金支出調整勘定	△156,000	△176,089	△139,678	△36,411
翌年度繰越支払資金	828,000	857,355	815,118	42,237
支出の部合計	3,815,174	3,848,261	3,628,194	220,067

支出増の主な要因は、①退職者にかかる人件費の増、②大学修繕費の増などによるものです。

この結果、平成30年度への翌年度繰越収支差額(累積赤字)は、平成28年度の前年度繰越収支差額△2,596百万円に、平成29年度の当年度収支差額△44百万円を加えた結果、△2,640百万円となりました。

資金収支計算書 (当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入及び支出の額を明らかにするもの)において、収入の部では、その他の収入のうち、学園充実引当資産取崩収入が大幅に増えています。これは、幼稚園園舎改築工事を全て自己資金で行うために取り崩されたものです。支出の部では、施設関係支出のうち、建設仮勘定支出(幼稚園園舎改築工事費)が増加しています。(詳細は、下記「資金収支計算書」を参照下さい。)

貸借対照表 (当該会計年度末の財政状態(運用形態と調達源泉)を明らかにするもの)において、学園の財務状況を見ると、平成29年度末現在の資産総額は13,156百万円となりました。一方、負債総額は1,281百万円、純資産の内、基本金は14,516百万円となりました。これらの結果、翌年度繰越収支差額は△2,640百万円となり、約44百万円収支が悪化しました。(詳細は下記「貸借対照表」を参照下さい。)

平成29年度決算において、事業活動収支決算においては、4年振りの赤字決算となりました。少子化の進展に伴い、私学を取り巻く環境は急速に、目まぐるしく変化し、今後、ますます厳しさを増していきます。このような環境下で、本学園は、富山県の「私学の雄」として、社会や地域のニーズに応えるという重要な使命を持っています。このためにも本学園は、長期的な展望のもとに、工夫を凝らし、持続的に発展・存在しなければなりません。

教育の発展の基盤となるのは、財政の健全化・安定化であることは言うまでもありません。現在、財務状況が下降傾向にあることは、質の高い教育の提供に大きな影響を与えかねません。加えて、本学園には短大校舎Ⅱ期工事、高校第2体育館建設、大学東黒牧キャンパス老朽化対策など、資金需要の高い事業が残り、財務状況の改善に努めなければなりません。

事業活動収支計算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	29年度予算	29年度決算①	前年度決算②	差異①-②
教育活動収入				
学生生徒等納付金	1,909,199	1,938,399	1,929,523	8,876
手数料	39,289	37,131	38,456	△1,325
寄付金	4,907	3,514	12,674	△9,160
経常費等補助金	730,984	629,831	667,402	△37,571
付随事業収入	31,762	30,837	29,488	1,349
雑収入	124,603	132,544	111,918	20,626
教育活動収入合計(1)	2,840,744	2,772,256	2,789,461	△17,205
教育活動支出				
人件費	1,740,233	1,691,581	1,657,678	33,903
教育研究経費	901,228	843,652	789,755	53,897
管理経費	133,626	124,647	119,465	5,182
徴収不能額等	1	355	955	△600
教育活動支出合計(2)	2,775,088	2,660,235	2,567,853	92,382
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	65,656	112,021	221,608	△109,587
収入の部				
受取利息・配当金	10,220	5,360	6,205	△845
その他の教育活動外収入	1	0	0	0
教育活動外収入合計(4)	10,221	5,360	6,205	△845
支出の部				
借入金等利息	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	10,221	5,360	6,205	△845
経常収支差額(7)=(3)+(6)	75,877	117,381	227,813	△110,432
特別収入				
資産売却差額	1	0	0	0
その他の特別収入	4	80,511	13,080	67,431
特別収入合計(8)	5	80,511	13,080	67,431
特別支出				
資産処分差額	25,900	25,968	3,926	22,042
その他の特別損失	1	0	6	△6
特別支出合計(9)	25,901	25,968	3,932	22,036
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△25,896	54,543	9,148	45,395
【予備費】(11)	15,500			
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	34,481	171,924	236,961	△65,037
基本金組入額合計(13)	△213,889	△215,685	△136,578	△79,107
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△179,408	△43,761	100,383	△144,144
前年度繰越収支差額(15)	△2,596,722	△2,596,721	△2,715,304	118,583
基本金取崩額(16)	0	0	18,200	△18,200
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△2,776,130	△2,640,482	△2,596,721	△43,761
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,850,970	2,858,127	2,808,746	49,381
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,816,489	2,686,203	2,571,785	114,418

そのためには、まずは、志願者・学生生徒を安定的に、確実に確保することが最優先課題と言えます。また、支出面では、常にコスト意識を持ち、予算の効率的な執行や優先順位などを検討し、支出の抑制にも努める必要があります。(学園の詳細な財務状況等は、学園のWebページ【http://www.tii.ac.jp/finance.html】に掲載してありますので、そちらもご覧下さい。)

平成29年度学校法人富山国際学園財務分析について

平成29年度決算の財務分析によると、法人全体及び各学校（幼稚園を除く）の経常費ベースでの収益性は前年度に引き続き、おおむね良好である。また、法人全体の安全性は今後もさらに高める必要があるが、短期的な支払い能力（返済力）は特に問題なしと判断される。

事業活動収支差額比率（損益ベースでの収支状況）は学園全体では、0%以上であるが、短大がマイナスとなっていることから、定員割れの状況を打開することが必要である。**人件費比率**（人件費の収入に対するバランス）は大学以外では60%を超えており、対策が必要である。また、**教育研究経費比率**（教育研究経費の経常収入に占める割合）は目安とされる30%を、大学、短大以外は若干下回っており、今後、収支の均衡を失わない限り、教育活動への更なる投資を目指す必要がある。

積立率（安定的に経営を行う上での保有資産の状況）は69.8%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

流動比率（短期的な支払い能力）は155.6%と返済力には問題はない。昨年度より幼稚園園舎改築工事に着手し、今後、短大の第Ⅱ期工事、高校の第二体育館の増改築、大学東黒牧キャンパスの老朽化による修繕費の増等が見込まれることから、収益性を更に高め、運用資産を増加させて安全性を高めていかなければならない。

【主な財務指標】

(単位：千円)

	①	②	③	④	⑤			
法人全体	2,785,127	2,686,203	98,924	3.55%	60.74%	29.52%	69.8%	155.6%
大学	1,124,911	1,027,420	97,491	8.67%	53.44%	32.02%		
短大	860,470	865,507	-5,037	-0.59%	62.04%	32.68%		
高校	724,654	652,745	71,909	9.92%	63.45%	24.50%		
幼稚園	49,626	78,347	-28,721	-57.87%	92.80%	20.18%		

※幼稚園の数値は、特殊要因である園舎改築にかかる富山市からの補助金73,000千円を除外している。

【参考】財務指標の意味

(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより)

①**事業活動収支差額比率**【基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入】
事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。

②**人件費比率**【人件費/経常収入】
人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。

③**教育研究経費比率**【教育研究経費/経常収入】
教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失わない範囲内で高くなることが望ましい。

④**積立率**【運用資産/要積立額】
※本学園の場合、減価償却引当特定資産がないため、特定資産に「学園充実引当資産」を加えて算出する。
運用資産=現金預金+特定資産+有価証券
要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+2号基本金+3号基本金
学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要（保有すべき要積立額）に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。

⑤**流動比率**【流動資産/流動負債】
流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

活動区分資金収支計算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位：千円)

貸借対照表

平成30年3月31日

(単位：千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	12,073,556	11,986,687	86,869
有形固定資産	8,223,773	8,298,109	△74,336
特定資産	609,369	622,893	△13,524
その他の固定資産	3,240,414	3,065,685	174,729
流動資産	1,082,519	968,015	114,504
資産の部合計	13,156,075	12,954,702	201,373
負債の部			
固定負債	584,834	598,367	△13,533
流動負債	695,782	652,800	42,982
負債の部合計	1,280,616	1,251,167	29,449
純資産の部			
基本金	14,515,941	14,300,256	215,685
第1号基本金	14,321,406	14,105,730	215,676
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,535	13,526	9
第4号基本金	181,000	181,000	0
繰越収支差額	△2,640,482	△2,596,721	△43,761
純資産の部合計	11,875,459	11,703,535	171,924
負債及び純資産の部合計	13,156,075	12,954,702	201,373

科目	金額	科目	金額
教育活動による資金収支		小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	192,358
収入		(a)=(b)+(c)	
学生生徒等納付金収入	1,938,399	借入金等収入	0
手数料収入	37,131	退職給与引当特定資産取崩収入	24,289
特別寄付金収入	2,900	学園充実引当資産取崩収入	219,878
一般寄付金収入	0	預り金受入収入	5,648
経常費等補助金収入	629,831	修学旅行費預り金受入収入	745
付随事業収入	30,837	小計	250,560
雑収入	131,655	受取利息・配当金収入	5,360
教育活動資金収入合計(1)	2,770,753	過年度修正収入	76
支出		その他の活動資金収入合計(2)	255,996
人件費支出	1,704,267	借入金等返済支出	0
教育研究経費支出	523,593	第3号基本金引当特定資産繰入支出	9
管理経費支出	122,351	退職給与引当特定資産繰入支出	10,756
教育活動資金支出合計(2)	2,350,211	学園充実引当資産繰入支出	394,607
差引(3)=(1)-(2)	420,542	修学旅行費預り資産繰入支出	745
調整勘定等(4)	37,625	小計	406,117
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	458,167	借入金等利息支出	0
施設整備等活動による資金収支		その他の活動資金支出合計(3)	406,117
収入		差引(4)=(2)-(3)	△150,121
施設設備寄付金収入	0	調整勘定等(5)	42,237
施設設備補助金収入	78,180	その他の活動資金収支差額(6)=(4)+(5)	△150,121
施設設備売却収入	0	調整勘定等(9)	
施設整備等活動資金収入合計(6)	78,180	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)(7)+(8)	815,118
支出		前年度繰越支払資金	815,118
施設関係支出	235,718	翌年度繰越支払資金	857,355
設備関係支出	35,271		
施設整備等活動資金支出合計(7)	270,989		
差引(8)=(6)-(7)	△192,809		
調整勘定等(9)	△73,000		
施設整備等活動資金収支差額(10)=(8)+(9)	△265,809		

部門別事業活動収支計算書

(単位：千円)

活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	
教育活動収支	学生生徒等納付金	収入	1,938,399	870,204	658,257	386,072	23,866	0	特別収支	経常収支差額(7)=(3)+(6)	117,381	111,298	25	65,428	△22,652	△36,718		
	手数料	収入	37,131	14,118	11,525	11,462	26	0		収入差額	0	0	0	0	0	0	0	
	寄付金	収入	3,514	1,981	1,000	0	533	0		資産売却差額	0	0	0	0	0	0	0	
	経常費等補助金	収入	629,831	177,546	157,234	275,662	19,389	0		その他の特別収入	80,511	702	316	6,493	73,000	0	0	
	付随事業収入	収入	30,837	16,792	7,793	0	5,793	459		特別収入合計(8)	80,511	702	316	6,493	73,000	0	0	
	雑収入	収入	132,544	43,350	24,181	44,965	19	20,029		支差額	25,968	14,509	5,378	12	6,069	0	0	
	教育活動収入合計(1)	2,772,256	1,123,991	859,990	718,161	49,626	24,488	21,029		支差額合計(9)	25,968	14,509	5,378	12	6,069	0	0	
	人件費	支出	1,691,581	601,154	533,875	459,819	46,055	50,678		特別収支差額(10)=(8)-(9)	54,543	△13,807	△5,062	6,481	66,931	0	0	
	教育研究経費	支出	843,652	360,162	281,238	177,508	24,744	0		基本金組入前当年度収支差額(11)=(7)+(10)	171,924	97,491	△5,037	71,909	44,279	△36,718		
	管理経費	支出	124,647	51,240	45,016	15,406	1,479	11,506		基本金組入額合計(12)	△215,685	8,071	△7,584	△15,849	△200,314	△9		
	徴収不能額等	支出	355	355	0	0	0	0		当年度収支差額(13)=(11)+(12)	△43,761	105,562	△12,621	56,060	△156,035	△36,727		
	教育活動支出合計(2)	2,660,235	1,012,911	860,129	652,733	72,278	62,184	22,778		前年度繰越収支差額(14)	△2,596,721							
	教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	111,021	111,080	△139	65,428	△22,652	△41,696			基本金取崩額(15)								
	受取利息・配当金	収入	5,360	218	164	0	0	0		4,978	翌年度繰越収支差額(16)=(13)+(14)+(15)	△2,640,482						
その他の教育活動外収入	収入	0	0	0	0	0	0	0	(参考)									
教育活動外収入合計(4)	5,360	218	164	0	0	0	0	0	事業活動収入合計(1)+(4)+(6)	2,858,127	1,124,911	860,470	724,654	122,626	25,466			
借入金等利息	支出	0	0	0	0	0	0	0	事業活動支出合計(2)+(5)+(9)	2,686,203	1,027,420	865,507	652,745	78,347	62,184			
その他の教育活動外支出	支出	0	0	0	0	0	0	0	事業活動収支合計-事業活動支合計	171,924	97,491	△5,037	71,909	44,279	△36,718			
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0	0	0	0	0	基本金組入前当年度収支差額									
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	5,360	218	164	0	0	0	0	0										

富山国際大学

大学生観光まちづくりコンテストで審査員特別賞受賞、 子どもの笑顔を守る草の根活動



現代社会学部観光専攻3年の谷脇ゼミは、平成30年9月11日(火)、石川県金沢市で開催された「大学生観光まちづくりコンテスト2018」北陸ステージの本選(全国24大学30チーム中、本選出場は10チーム)に進出し、審査員特別賞(JTB賞)を受賞しました。今回受賞したJTB賞は、JTBの社員の方々と一緒に、提案したプラン「加賀百万石の創生～進化をつなぐパスポート～」の商品化に向けたプロジェクトを進めるものです。

また、子ども育成学部2年の石倉ゼミは、東日本大震災で被害を受けた保育所に、学生手作りの「ストローロケット遊びキット」50セットを、社会貢献共同体ユニテッドアース事務局を通して届けました。その後、再建された南三陸町立戸倉保育所から届いた手紙には、「子どもたちの笑顔を守ることが私どもの使命と思い、これからも尽力していきたいと思います」と書かれており、学生たちは感慨深げでした。一人も置き去りにしない社会をめざして自分にできることを探し、希望を送り続ける草の根の活動を続けていきます。

富山短期大学

食の王国フェスタ2018で食物栄養学科大活躍

平成30年10月27日(土)、28日(日)に「食の王国フェスタ2018秋の陣」がテクノホールで開催されました。毎年、富山の旬の幸を届けるフェスタで、今年は「富富富」のデビューや新企画が満載でした。セントラルキッチンでは昨年度、全国食肉野菜創作料理で特別賞を受賞した、食物栄養学科2年の小林正幸さんが「豚肉の昆布メロール巻き」の料理実演を行い、50名の方に試食していただき、大変好評でした。続いて富山の特産品を使った「富山食彩工房」でも参加者16名に教えました。新企画である「次世代を担うオリジナル商品発表」では、スイーツラボのメンバーが2日間に亘って、五箇山ぼべらを使用した「南瓜のスティックケーキ」と「小松菜のシフォンケーキ」を販売し、日頃の成果を発表しました。



富山国際大学附属高等学校

ユースオリンピック フットサルで銀メダル獲得



ブエノスアイレスで行われた夏季ユースオリンピックで、本校3年生の2人がメンバー入りするフットサル女子の日本は、銀メダルを獲得しました。

日本は、平成30年10月15日(月)の準決勝で強豪スペインを3-2で撃破し、17日(水)の決勝ではポルトガルに惜しくも1-4で敗れたものの、見事準優勝に輝きました。本校3年生で、富山市を拠点とする女子フットサルチームLaufen(ラオフエン)に所属するG K須藤優里亜選手、フィールドプレーヤー追野沙羅選手の2人が代表として出場し、須藤選手は全試合に先発出場。追野選手は準決勝で3点目を決め、決勝進出に貢献しました。

追野選手は「決勝という舞台では何もできずすごく悔しい試合となったが、とてもいい経験になりました。ここで終わりではなく、次につなげられるよう全国に向けて頑張ります!応援、本当にありがとうございました!富山に帰ったら、またよろしくお願いします!」とコメントをくれました。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

年長組遠足～とんがり山探検～

平成30年10月12日(金)に、年長組の遠足がありました。目的地は立山のとんがり山です。事前に調べると、「UFO伝説」がある山だと判明。そこに宇宙人からの手紙!?が園に届いたことで、みんなは宇宙人に会いたい気持ちがいっぱいで出発しました。

頂上まで559mの山道を歩いていると、サワガニに出会ったり、いろいろなキノコやドングリがあつたりしました。「宇宙人さ～ん!会いにきたよ!」と声をかけながら歩き、いよいよ頂上に到着です。頂上から眺める景色に疲れも吹き飛び、自然と「ヤッホー!」とみんなの声が響いていました。

宇宙人には会えなかったけれど、みんなは「また会いに来るよ!」と声を掛けて、帰り道を歩き始めました。とんがり山で秋の自然を全身で感じることでできた一日でした。

